セーフコミュニティ活動報告

～安全・安心なまちを目指して～

問合先
地域環境課 地域振興担当

委員会の動き～現地審査（本審査）に向けて～

防災・減災対策委員会では、現地審査に向け、５つの具体的取り組みごとに委員をグループ分けし会議を行っています。今月号では、現時点で決定している取り組みや、開始している事業についてご紹介します。

◆家具や家電等の固定方法・器具の設置啓発

家具や家電などの転倒・落下防止対策の必要性を知ってもらう取り組みを行っています。

モデル地区を定め、アンケートを実施し、地域団体とともに家具・家電の固定方法や固定用の器具の設置について地域にチラシや番組を通じて啓発を行っていきます。

◆自主防災組織の啓発、人材発掘・育成、地区防災計画策定支援

地域住民の自助・共助意識の醸成を図り、自主防災組織の体制をさらに強化するために、楽しく防災へのモチベーションを高められる「つる防災ラボ」※や「オンラインサロン」を展開し、地区の防災活動や地区防災計画策定において、リーダーシップを発揮できる人材を育成することが必要不可欠です。

※防災ラボ＝防災に関する知識や、計画・企画をみんなでつくる技術を学ぶ勉強会など

◆防災つるメールの啓発・登録指導

避難に関するメールを受け取ることができる「防災つるメール」の普及状況は、昨年の７月時点での登録者数は2,124人、登録率８％（15歳以上割合）と低い割合です。

今後、「防災つるメール」やまちマーケットなど、防災無線の内容を確認できる手段や登録方法について、チラシを作成し、市民の皆さまの手の届く場所で広報活動を展開していきます。

◆女性防災研修会の実施、啓発用ハンドブックの作成

女性の防災意識の向上、防災活動への参加・参画により、災害時の多様なニーズに対応できる強い自主防災組織を確立するため、女性の防災活動への参加の必要性を伝える女性防災研修会の開催は重要となります。

これまでのような単なる研修会ではなく、その前段として気軽な気持ちで『防災』をテーマにおしゃべりができる「防災カフェ」の開催を決め、過日第１回目のカフェを開催しました。

今後も、週１回のペースでカフェを開催し、研修会やハンドブックの作成へと展開していく予定です。

◆災害関連の健康リスク軽減のための講習会などの開催

災害後や避難後の健康リスクを軽減させるため、健康科学大学の学生が講師となり応急手当やリスク予防の啓発・実技指導を行います。また、コロナ禍における対策として、避難所での感染症まん延を防ぐための「衛生的な手洗い」に関する研修動画を作成します。

現在この動画を使った講座を準備しており、３月から４月には各地域や団体などに展開していきます。